

水道
・
病院
会計
も
承認

水道会計

漏水防止や給水の円滑をはかる

昭和48年度末における業務量は、給水戸数43,958戸、給水人口164,290人で、前年度に比べ給水戸数2,295戸、給水人口4,989人の増加となりました。また、総配水量については25,360,502立方メートルで、前年度より2,002,383立方メートルも増加し、1日最大配水量は80,720立方メートル(48年7月)、1日平均配水量69,481立方メートルで、水需要に対する供給の整備に力を注ぎました。

主要事業は第4次拡張事業も3年目になり、事業費4億3,000万円で、鷹岡および吉原地域における配水量確保のため延94件の諸工事を実施しました。事業の主なものは、深井戸3井、配水池2池を造り、送配水管23,556メートルを布設しました。しかし、石油危機以来の物不足により資材の入手難と価格の高騰などで、工事も支障をうけ事業費の一部を49年

度へ繰越しました。また、一般改良工事は2,570万円で、水中ポンプの改修、老朽管の更新、小口径管の新設などを行い、漏水防止と給水の円滑をはかりました。

経営状況については、収益的収支は収入額6億3,560万円、支出額は5億9,806万円で、純利益は550万円とこれまでに減少しました。

資本的収支は、収入額4億6,730万円、支出額5億1,834万円で、収支不足額1億1,161万円は、補てん財源をあて、利益剰余金残高は3,003万円となりました。しかし、昭和49年度以後は補てん財源をあてても資金不足は目に見えており、料金値上げがやむをえない状態となりました。



【43,958戸に給水、164,290人が利用】

病院会計

患者数が大幅に増加

利用状況は年間の患者数が296,362人(1日平均943人)で、前年度に比べ28,444人も増えています。このうち入院患者数は90,427人(1日平均248人)で前年度に比べ2,355人増加しました。外来患者数は205,935人(1日平均696人)で、前年度に比べ26,089人増加しました。また、主要事業件数も手術、投薬、検査、X線件数なども大幅に増加しました。

経営状況から見ると、収益総額は12億4,651万円、費用総額は12億3,752

万円で、差引き899万円の黒字決算となりました。しかし、収益中に一般会計補助金1億3,500万円を含んでいるので、実質的には赤字決算です。赤字の原因は、職員給与の大幅アップ、石油危機に伴う諸物価の高騰などが直接影響していますが、医療費の緊急是正が2月に実施されたため48年度にその効果が少なかったことも大きく影響しました。

資本的収支は、一般会計からの出資金1,000万円や事業内部資金をもつ



【1日943人が利用】

て、分娩室移設工事、医療器機備品の整備などを計画どおり実施しました。